



なきごえ



1994

9



(撮影：中川 哲男)

- 2 — New Face カナダヅルのヒナ誕生(中川哲男)
- 3 — 動物と私 成層圏を飛ぶ鳥(榎 泰義)
カバーウォッチング ツノウズラ
- 4 — 身近な夜行性動物① ネズミ類(恩地 実)
- 6 — クロサイの繁殖(榎谷文彦、仲谷 登)
- 8 — グラフZOO とりどりの足(中川哲男)
- 10 — 公園花だより⑫
天王寺公園あれこれ(仁田原 洋)
- 11 — ZOO DIARY

カバーウォッチング

ツノウズラ
キジ目 キジ科

Oreortyx picta

北アメリカ西部の山地、高原に生息する美しいウズラです。頭部の黒くて長い冠羽が特徴的で、青灰色を基調に背部は灰褐色、喉は栗色と仲々カラフル

(撮影：中川哲男)

||||| 動物と私 |||||

成層圏を飛ぶ鳥

今年もつい先日、終戦記念日を迎えたばかりです。私どもの世代で戦争といえば、白昼悠々と超高空を飛ぶボーイングB29爆撃機の銀白色の姿がまず心に浮かびます。人類にとって成層圏飛行が可能となったのは、第2次世界大戦中のことですが、いろいろな動物の低酸素耐性を調べてみると、同様な高空を飛べる鳥のいることがわかりました。話のきっかけはこうです。

大戦も末期、インドからヒマラヤをこえて中国方面へ向うB29がありました。高度9,500m、エンジンに何ものかがとびこみ、あわや墜落かという事故がおきました。調べてみると、思いもかけず、鳥の群と衝突したことがわかったのです。高度9,500mといえば、0.3気圧、酸素は平地の1/4、おまけに気温は-55℃。それまでの常識では、とてもこんな超高空を鳥が飛ぶなど考えられないことでした。調査の結果、この鳥がインドガンであることも間もなくわかりました。インドガンは標高760~5,500mのチベット、モンゴルなど中央アジア高原の河川、湖沼を夏の営巣地として繁殖、秋にはヒマラヤをこえて2~3日におよぶノンストップ飛行の末、暖いインド平原をめざします。春さ



榎 泰義さん

(奈良県立医科大学 第2生理学教室 教授)

きには、同じルートを逆にたどり再び故郷にもどるのです。さきに述べた事故は、おそらくこの渡りの最中におこったと考えられます。

大戦がおわり、戦時中に開発された軍事技術が、さまざまな形で平和利用されるようになりました。成層圏飛行の一般化もその一つでした。1974年のこと、南アラビアと象牙海岸を結ぶ輸送機が、高度11,300mで1羽の鳥と衝突、不時着を余儀なくされるという事故がありました。エンジンに残された羽毛から、衝突した鳥がマダラハゲワシであることもほどなくわかりました。この類の鳥は、ヨーロッパでは昔から鷹狩によく用いられ、「デカメロン」の作者ボッカチオの作品にも登場するとか。

ともあれ、とてつもない高空を飛ぶ鳥のいることが、偶然とはいえ、さきの大戦の一種の知的遺産としてもたらされたのは、まことに興味深いことではありませんか。その後、同じように超高空を飛ぶ鳥として、アンデス山地に生息、繁殖するアンデスガン、東シベリアで繁殖し北インドで越冬するソデグロヅル、さらに西はイベリア半島から東は中国北東部に及ぶ広い地域に生息するベニハシガラスなどが報告されています。

ではこうした鳥が、哺乳動物ならとても生存できない過酷な条件下、しかも飛行というエネルギーコストの高い運動を長時間にわたり続けられるその秘密は何なのでしょう。もしそのからくりが明らかになれば、学問的にたいへん興味あるだけでなく、医学実地面への応用も大いに期待されるでしょう。残念ながら、今のところその全貌の解明には至っていませんが、たとえば酸素に対する強い親和性をもつヘモグロビンの存在など、いくつかの興味ある事実が報告されています。

(えのき やすのり)

カナダヅルのヒナ誕生 ツル目 ツル科

6月19日にふ化したカナダヅルのヒナ、ちょうど35日目に撮りましたが、気の強い両親に守られなかなか写真を撮らせてくれませんでした。



現在、天王寺動物園には、アカネズミ、ヒメネズミ、カヤネズミなどのネズミが展示されているのでご覧になった方も多いと思います。なかなかかわいかったのではありませんか。少しネズミに対するイメージが変わったのではないのでしょうか。

普通、皆さんがネズミという思い浮かべるのは、地下街や下水道などに多いドブネズミ（体重約250g、暗茶色）、天井や高層ビルの最上階の飲食店にもいるクマネズミ（体重約150g、茶色）などの家ネズミといわれているネズミたちでしょう。しかし、ネズミには、人間とはそれほど深くかわからず野山でひっそりと生活している野ネズミもいるのです。こんなネズミたちを少し紹介しようと思います。

今、家ネズミ・野ネズミという分け方をしましたが、皆さんがネズミを分類するといえば、都会のネズミと田舎のネズミに分けるのではないのでしょうか。それが、家ネズミと野ネズミにあたります。

ネズミ類のこの分け方は、人間との関係で分けたもので害虫・益虫などと同じでまったく人為的なものです。学術的（系統的）には、ネズミ類は動物界脊椎動物門哺乳綱ネズミ目ネズミ科のネズミ亜科とハタネズミ亜科に分けられます（研究者によって少し異なる）。大阪のネズミは、ネズミ亜科の4属6種（アカネズミ、ヒメネズミ、カヤネズミ、ドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミ）とハタネズミ亜科の2属2種（ハタネズミ、スミスネズミ）に分類されます。

狩猟民族と農耕民族との違いで動物とのつきあい方が違うのか、英語では、このネズミ亜科とハタネズミ亜科とは完全に分けており、「マウス」というのは、ネズミ亜科に対して（ネズミ亜科の特別のものを「ラット」）で、ハタネズミ亜科は「ポウル」といいます。なお、その他にも日本語では分けていない、ウサギはラビット（アナウサギ、カイウサギ）とヘヤー（ノウサギ）に、サルはモンキー（尾のあるサル）とエイブ（尾のないサル、類人猿）に分けています。

これらネズミ亜科とハタネズミ亜科の違いはいろいろありますが、一番大きいのは「尾の長さ」と「耳の

大きさ」です。それらはそのネズミたちの生活を表しています。

つまり、ネズミ亜科のネズミは巣は地中にある場合が多いのですが、採餌などの活動は地上である場合がほとんどですので、耳は大きく、尾も長いのです。尾率（尾長÷頭胴長×100）は100%前後あります。その長い尾でバランスをとり、細い木の枝の上でも上手に動き回っています。また、大きな耳は、天敵などの情報を集めるのに役立っていると思われれます。

アカネズミは、日本各地の山麓地帯の草原から標高2000mを越える山地帯まで棲んでいる

体重40g、頭胴長12cm、尾長11.5cmぐらいで、日本の野ネズミの代表種といえます。背中が赤色、腹は白色のツートンカラーで大変きれいなネズミです。



アカネズミ
耳・目の大きな、尾の長いきれいなネズミです

そのアカネズミを小型にしたようなネズミが、体重約15g、頭胴長約9cm、尾長約9.5cmのヒメネズミで背中が暗赤色で腹は白色です。主に山地帯の森林に棲んでいます。森があれば標高200mぐらいのところにもいます。木によく上ることでも知られており、小鳥用の巣箱で繁殖していることもよくあります。顔の中での目の割合が小さいので区別できますが、アカネズミの子供とよく間違えられます。

カヤネズミは、明るい茶色をした、ススキなどの草本の茎に直径10cmぐらいの小鳥のような丸い巣（出入口が簡単に見つからないのですぐ区別できる）を作るので有名な体重約6g、頭胴長約6.5cm、尾長約7.5cmしかない小さい小さいネズミです。先端に毛のない尾を巻き付け草の茎を上り下りします。

ハツカネズミは家ネズミに分けられていますが、場所により夏だけ屋外に出たり冬だけ屋内に入ったという、季節により屋内と屋外を棲み分けするものもいます。さらに、例えば淀川の河川敷のような人家から離れたところにも生息しており、そういうところのハツカネズミは一年中屋外で暮らしています。体重約12.5g、頭胴長約7.5cm、尾長約6.5cmで背中が赤茶色、腹は白色、他の家ネズミに比べると大変小さなネズミです。最近、よく大きいネズミはでなくなったが、子供のネズミがでて困るという話を聞きますが、それがこのハツカネズミです。子供ではなく、それで大人なのです。

なお、ペットや実験動物でおなじみの「マウス」は、このハツカネズミのアルビノ（白化個体）を固定したもので、「ラット」はドブネズミのそれです。

以上のようなネズミ亜科に対して、自分で掘ったりモグラのものを利用したりして地下のトンネルの中だけで主に生活をして、地上へはあまり出てこないハタネズミ亜科のネズミはモグラ型のネズミといえます。ジャンプ力はほとんどなく、木にも上りません。耳や尾はほとんど必要でなくなり、地下のトンネルを動き回るのに邪魔にならないよう耳は小さく、尾も短いのです。尾率は大きいものでも60%、小さいものでは30%です。

その代表のハタネズミは、河川敷や低地の草原や水田・畑地にいる、体重約35g、頭胴長約11cm、尾長約4cmの灰色のネズミで、ほぼ完全な草食者

なので耕作物に害を与えることもあります。また、条件が揃うと大発生することで有名で、日本でも



ハタネズミ
耳の見えない、尾の短いかわいいネズミです
(撮影：吉田 恭子)

1ha（100×100m）あたり1120頭にもなったことがあります。

スミスネズミは大阪ではいちばん珍しい（少ない）ネズミで、ハタネズミに大変よく似ており体重約30g、頭胴長約10cm、尾長約4.5cmの赤味がかかった茶色のネズミです。山地の沢沿いなどに棲んでいます。大阪で大発生した記録はありませんが、ハタネズミのいない四国では大発生することもあります。

京都府美山町の京大芦生演習林でアカネズミを、大阪府高槻市の淀川河川敷鶴殿でハタ



淀川鶴殿の調査地
大阪にこんなところがあるほど自然環境が残っているところ

ネズミを各々5~6年研究してきました。生け捕り罠を仕掛けて一日に何回かその罠を見回りのネズミが捕獲されているのかを調べました。その結果、各ネズミの日周期活動（一日の内のどの時間帯に活動するのか）が判ってきました。

アカネズミはほぼ完全な夜行性で、夕方に活動を始め、深夜には一度活動を止め、明け方もう一

度活動するという、活動パターンは二山型になります。夜の短い夏などは一山型になることもあります。また、芦生演習林でのアカネズミの観察

大きな耳に個体識別用のタグを付けています
複数の個体が同じ

場所で活動する場合は、最初の夕方の活動は全個体がほぼ同時に始まりますが、その次の活動は強い個体はいつもと同じですが、弱い個体は強い個体のいないときに活動します。

一方、ハタネズミは主に地下で生活しているためかアカネズミの様にははっきりとした日周期活動はみられず、テレメーター（発信器）で調べたところ一日中だらだらと活動しているようです。しかし、罠への掛かり方は、夏から秋はほとんど夜だけですが、冬から春は主に昼の方になります。それは、暑さ寒さを避けているように思えます。

— ういった野ネズミが生息できる環境がどんどん破壊されていきます。ネズミだからといってねずみ算式にどんどん増えるわけではありません。一度環境が破壊され絶滅すると、孤立した環境なら哺乳類は自然に回復することは大変困難です。また、アカネズミは雑食で、昆虫から果実までいろいろ食べます。野ネズミはイタチやキツネ、タヌキなどの哺乳類や他のワシ、タカなどの猛禽類、さらに、蛇類などの餌になっています。つまり、野ネズミが生息しているところは、その餌である植物や昆虫が豊富で、さらにネズミの天敵も棲むことができる自然環境が保全されたところであるといえます。

ですから、現在残されている野ネズミが生息できる環境はぜひ守って行きたいものです。そして、できれば守るだけでなく、増やすことも考えたいものです。例えば、大阪市内に唯一護岸工事がされていない自然海岸があるのをご存知ですか。淀川右岸の河口、神崎川との三角地・矢倉海岸です。そこは、約20ha近くあり、現在ハツカネズミ、イタチ（ホンダイタチかチョウセンイタチかは不明）、コミミズク、マムシなどの生息が確認されています。キツネやタヌキなど中型哺乳類が生息しているだけの広さがあります。大阪市内にキツネやタヌキが生活していける場所があってもいいのではないのでしょうか。そのためには、その餌となる野ネズミが生息できなければなりません。その前に、その野ネズミの餌が必要です。矢倉海岸にそのような自然環境が残るように運動をしていきたいと思っています。

(おんち みのる)

クロサイの繁殖

1994年4月20日、11年ぶりにクロサイのメスの赤ちゃんが誕生し、順調に育っています。当園でのクロサイの繁殖は、1972年、1983年に続き今回で3回目の成功です。国内でのクロサイの繁殖は1963年に神戸市立王子動物園で初めて成功して以来、約20頭が繁殖しており、けっして珍しいものではありません。しかし、今回の繁殖の成功は(社)日本動物園水族館協会の種保存委員会が策定したクロサイの繁殖計画が初めて実り、生まれたものでその意義は大きいものです。

繁殖計画が策定されたのは5年前の1989年7月に東京で開催された第2回種保存委員会の時、広島市安佐動物公園の津原係長を調整者として、6名のクロサイ繁殖検討委員会で協議されたものです。当時、クロサイは国内で4園(日立市かみね動物園、名古屋市東山動物園、当園、広島市安佐動物公園)で12頭しか飼育されていませんでした。

そのうえ、繁殖しているつがいは広島市安佐動物公園と日立かみね動物園の2つがいかかりませんでした。そこで、繁殖計画を策定し当園、広島市安佐動物公園、および名古屋市東山動物園の3園が相互にクロサイを移動して繁殖可能なつがいをさらに2組増やすことになりました。

その後、この計画の成果が繁殖成功という結果が出るまでに約5年を要しました。ここでは、このクロサイの繁殖計画の概要と繁殖までの当園における5年間のクロサイの飼育記録についてお話したいと思います。

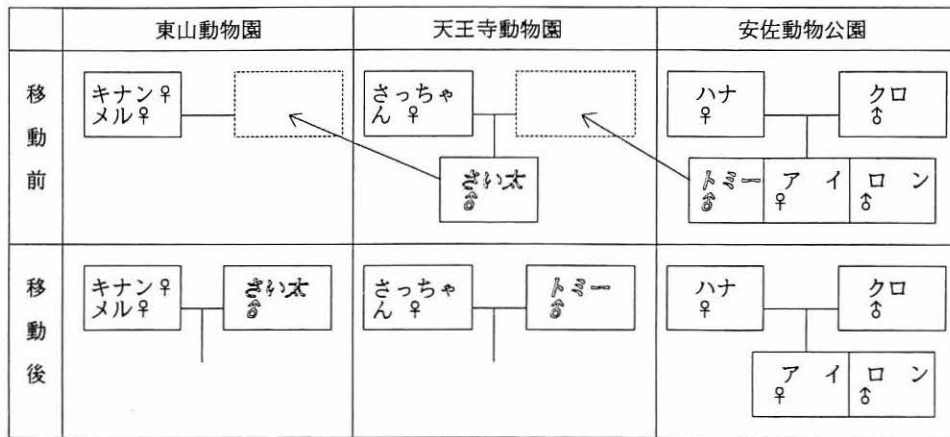
1989年当時、当園ではメス親“さっちゃん”とその仔(オス)“さい太”の2頭を飼育していました。しかし、その仔が6歳になり、そろそろ繁殖可能な年齢となり、近親繁殖を避けた

めには仔を出す必要がありました。また、安佐動物公園でもほぼ同年齢のオスがおり、オス親との闘争を避けるためには仔を出さなければならない状況にありました。一方、名古屋市東山動物園ではメスのみ2頭が飼育されており、繁殖のためにはオスを導入する必要がありました。そこで下図のように当園のオス“さい太”を名古屋市東山動物園へ移動させ、広島市安佐動物公園のオス“トミー”を当園が受入れることになりました(斜袋文字が移動個体)。書類上は広島市安佐動物公園のオス“トミー”と当園のオス“さい太”を交換し、広島市安佐動物公園がオス“さい太”を名古屋市東山動物園へ貸出すという形をとりました。



“さい太”の捕獲作業

となのですが、6歳とはいえ、体重は1tはあろうかと思われる大きな動物ですので、網で捕まえたり、麻酔したりすることはできません。1989年8月21日、いよいよ“さい太”の搬出の日です。少量の餌をオリの中に入れ、オリの中へ誘い込みます。サイは視力が弱く、ちょっとした物音に驚く臆病な動物です。1回失敗するともうオリに入っ



てはくれません。慎重に作業を進めた結果、思いのほかスムーズに進みました。搬出の1週間前から運動場に輸送のためのオリをすえつけ、毎日オリの中で餌を与え慣らせていたためか、輸送オリに入った“さい太”は案外落ち着いていました。大きなクレーンで吊り上げられ、トラックの荷台におさまり、ほっとしたことを昨日のこのように思い出します。

“さい太”が出園してちょうど4週間後の9月18日に広島市安佐動物公園からオスの“トミー”が来園しました。“さっちゃん”の隣のオリに収容し、しばらくオリごしの見あいさせました。“トミー”は大変おとなしく、人にもよく慣れており、オリの中に入って体を触ることができるようでした。

1週間後には1頭のみで初めて放飼場へ出すことができました。相性も良さそうなので来園から3週間目にはメスの“さっちゃん”と寝室内で同居させることができました。来園から4週間目の10月16日には放飼場で同居展示させることができました。“トミー”が悠々と歩きまわったり、干し草を食べているのに、最初威勢よくみえた“さっちゃん”は“トミー”が近づいてくると急に緊張感をみせ、そのうち体を震わせ始めました。しかし、日が経つにつれて、“さっちゃん”の緊張もほぐれてきたのか、震えも減り、2、3度角の突き合せはあったものの2頭を隔っていた距離は徐々に縮まり、同居させることができました。

マウント(繁殖行動のひとつで、オスが後方よりメスの腰に乗る行動)を初めて確認したのは1989年の12月28日で、同居展示の開始後73



日目でした。その後、数回マウント行動を確認しましたが、完全な交尾を確認したのは1990年7月5日で同居開始後約8ヵ月目でした。さらに、7月31日と翌年の1月2日にも交尾

初めてのマウント(1989年12月28日)を確認しました。1991年3月からオスがメスを意識して、寝室へもどるのを嫌がるという異常行動を示したため、妊娠の疑いをもってオスとメスを隔離しました。しかし、期待した出産はみられなかったため、1992年6月22日、15ヵ月振りにオスとメスを同居させましたが、その日にオスはマウント行動を示し、翌日にはメスもオスを受入れて交尾しました。1993年2月24日までに交尾は数回、またマウントは同年3月24日まで確認しましたが以後は何ら繁殖行動は見られませんでした。

1991年3月からのオスの異常行動に続き、11月には、今度はメスが寝室内で落ち着かなくなり1990年7月の交尾から15~16ヵ月経つことから出産兆候ではないかと疑いましたが、出産はありませんでした。

1993年3月以後、再びオスが入室しながら異常行動が出ましたが、以前の異常行動の例もありましたので妊娠は疑わず、そのまま同居展示を続けました。

今回の出産で明確な出産兆候は、出産直前まで確認できませんでした。本年の4月13日に陰部腫張が確認されました。さらに、4月19日には乳汁分泌も確認しました。乳汁分泌を確認したので、翌日に出産準備をする予定でしたが、翌20日の午前9時にはすでに出産していました。



寝室内の親仔(1994年6月2日)の後手になりましたが、寝室の格子の間隔が広いので赤ちゃんが出ないように直ちに、ベニヤ板で寝室を囲い、稲ワラを敷きました。作業による悪影響を心配しましたが“さっちゃん”にとっては2度目の出産のためかたいへん落ち着いており、その日のうちに授乳も確認でき、全く心配のない安産でした。

出産後74日目の6月13日、一般公開する前日の休園日に報道公開を兼ねて初めて寝室外へ出しました。外に出た仔は最初少々とまどっていましたが、すぐに慣れ放飼場を元気にかけ回っていました。翌6月14日(出産後75日目)から一般公開しま



したがかわいい赤ちゃんは人気を集めています。以後、原則としてオスと母仔とを1日おきに交代で展示しています。

今回、クロサイの繁殖計画は一応成功しましたが、まだまだ問題は残されています。現在、国内では5園で12頭が飼育されていますが、広島市安佐動物公園で繁殖しているつがいの血をひくものが多く、このままでは今回当園で生まれた子供とつがい形成させるオスを見出すことはできません。今後、近親交配を避けるためには国際的な協力がぜひ、必要になってきます。なにはともあれ繁殖計画が一応の成功をみたことはたいへんうれしいことです。赤ちゃんが無事に成長し今後のクロサイの繁殖計画に寄与することを祈りたいと思います。

(飼育課：葎谷 文彦、仲谷 登)

グラフZOO

とりどりの足

何とはなしに見ている鳥も興味をもって、じっくり見てみると結構、面白いですよ!!
今回は鳥の足を特集してみました。

(撮影：中川 哲男)

むぎごえ 30 (9) .1994

なまごえ 30 (9) .1994

Q1 潜りはお手のもの、寒い地方の鳥と思われていますが、けっこう暖かいところにも棲んでいます。さて?

Q2

いかにも怖そうな足、ワシづかみにされたらたまったものではありません。さて?



Q4 クチバシを網のようにして魚をすくい、鵜呑みにします。さて?

Q3 地上最大の鳥、走らせても一番、背の高さも一番。さて?

さて、それぞれは何という鳥でしょうか?

ヒントを参考に考えてみてください。
正解は右下にあります。

Q5 カミソリのような^{けづめ}蹴爪はオスの強力な武器です。さて?



Q6 水草の上もヘッチャラ。泳ぎも得意です。さて?



Q7

見るからに怖そう。
^{がんじょう}頑丈な足に巨大なツメ、
蹴とばされたら大ケガ間違いなし。さて?



Q8 大空にはばたく世界最大の鳥、しかし、人にも慣れやすい一面もあります。さて?

正解は、1. フシボロトビ、2. オシロイ、3. タチウオ、4. モモイロペンギン、5. コサシ、6. ツバメ、7. ヒメドリ、8. コサシ

公園花だより ⑫



★天王寺公園あれこれ

9月初めは残暑もきびしく、日中の気温は真夏と何ら変わることはありませんが、それでも朝夕はめっきり涼しくなり何よりも日脚は日一日と短くなって勤め帰りが少し遅くなると庭の見回りもできないほど暗くなってきました。

今年の遅い春、天王寺公園のあちこちに咲いていたソメイヨシノも散って、若葉も出そろった頃、公園東口から美術館の方へ歩いて行くと北側の塀の傍に水色の小さな花が今年も植え込みの雑草の中に咲いていました。何の花か図鑑で調べてみましたが分かりませんでした。造成工事で土を運んできた時に一緒に運ばれて来たのでしょうか？ 除草作業と一緒に抜かないでと祈りながら来年も今年以上に群生して咲いてと願いました。この辺りは旧天王寺温室のサボテン室の辺りで温室の前にはフェニックスの並木があり、当時のことがなつかしく思い出されます。

天王寺公園は明治36年(1903)に開催された第5回内国勧業博覧会の跡地に作られました。会場は現在の天王寺公園と新世界を含む33万㎡で、期間も5カ月と、当時としては大規模なもので、530万人が訪れたということです。明治42年(1909)この施設の一部が天王寺公園として発足し、大正4年(1915)には動物園が開園し、同11年には慶沢園及び茶白山が住友家から寄贈されました。

「慶沢園」は名庭師といわれた小川治兵衛が明治41年(1908)年から10年あまりかけて、全国から銘石銘木を集めて築庭しました。純日本風の林泉式回遊庭園で総面積19,800㎡のりっぱな庭園です。戦後は一時荒廃し、先輩達は当時、庭園で野球をして遊んだことを話してくれました。昭和34年に直営工事で外柵を設置し、大人10円、小人5円で一般に公開しました。当時の回遊路には八重ザクラが数多く植え込んでありましたが、ケヤキ、ムク、クス等の樹木が大きくなって日陰になりサクラ等の花木は枯れていきました。

現在の天王寺公園が造られたのは昭和62年の天王寺博覧会の後であり、その時のテーマ館として建てられた建物を植物温室として使われています。植物温室、催物展示会場を見物するのは心が洗わ

れます。植物温室では今の季節に似合いの食虫植物展を開催しています。中でも目を引くのがムスキブラ(ハエジゴク)。ムスキブラは常緑の多年草で葉の中央に左右3本ずつの感覚毛があり、虫がこれに触れるとアツという間に葉を折りたたんで虫を捕らえ、分泌液で養分を吸収してしまします。



空振りを避けるためか感覚毛は1回の刺激では反応せず、2回目の刺激にすばやく反応して葉を閉じます。植物温室のムスキブラは残念ながらお客さんが毎日触れるためか温室で休養できないせいか、手で触れても反応がありません。

天王寺公園の春秋の植木市もいよいよものです。近くの都市からびっくりするほど植木が集まって来ます。お客さんが集まって品定めする風景は実に楽しいものです。木々草花が並んでいるのを見て歩くと都会の中のジャングルを歩くような気持ちになってしまいます。

夏の初め頃沈床花壇のボックスウッドの中にもありません。ムサシアブミに似た花で図鑑で調べてみると「田畑に多く生える多年生草本で、球根は薬草になる」とありました。

除草作業の時、気をつけていたのですが、南側のボックスウッドの中でイタドリを見つけた時にはなつかしくなりました。子どもの頃、山に採りに行って食べた記憶があります。イタドリは茶白山にも生えています。茶白山は古墳時代中期(5世紀頃)に造られ、前方後円墳の一部といわれていますが、円墳である説もあり定かではありません。慶長19年大阪冬の陣には徳川方の本陣となり、夏の陣には真田幸村がここに陣をおいたともいわれています。北の逢坂を隔てた安居神社境内に「幸村戦死跡」の碑が建っています。

和気橋から水生花園の方へ行きますと水生花園の土手にはサギゴケが今年も咲きました。ゴマノハグサ科(鷺苔)で、花がサギの形をしていて、苔のように生えているのでその名があります。多年草で茎は短く、花期は4~7月で本州、四国、九州に分布し田のあぜ道や、湿り気のある野原に自生しています。強健でよく生えるので庭などに植えて他の雑草類を駆除するために利用できます。

こうして草花、樹木に囲まれて仕事していることはたいへん幸せなことです。緑がその日その日、眼を楽しませる生活はうれしいことです。今、事務所の窓越しにサルスベリが満開で当分花見ができるのはありがたいことです。

(管理課: 仁田原 洋)

- 7/1. レッサーパンダの屋内での展示を始めました。これは暑さに弱いレッサーパンダを、空調の効いた展示室に移したものです。
- 7/3. ニホンコウノトリの2羽目のヒナが巣立ちしました。
- 7/4. ニホンコウノトリのヒナ3羽に、個体識別のため脚帯をつけました。
- 7/5. 6月に保護したドバトなど合計4種9羽が回復したので自然復帰させました。
- 7/6. 今季5羽目のレアがふ化しました。
- 7/7. オウサマペンギンが産卵しました。

7月8日 アルダブラゾウガメ3頭とヒョウモンガメ2頭をカモシカ園に移しました。これは夏の間、日光浴させるためで、毎年恒例になっています。同時に体重測定も行いましたが、一番大きなアルダブラゾウガメは97kgもありました。



- 7/10. カルガモの卵を3個保護しましたので、人工ふ化させるためふ卵器に入れました。
- 7/11. 6月と7月に保護したムクドリが元気になったので自然復帰させました。

7月14日 大阪城のお堀で飼育されているコブハクチョウの顔と舌に魚釣用のルアーが



引っ掛かっているのを職員が発見し、治療のため当園に運び込まれました。同様の事故は今回で2度目です。釣人のマナーの向上が望まれます。

- 7/16. スズメ2羽、キジバト、カルガモ、ヒヨドリ各1羽を保護しました。
- 7/17. “動物園のおじさんのお話”でサイのガイドを行いました。

7月20日 アミメキリンの赤ちゃんが1頭生まれました。生まれたのはオスで、飼育担当者が“マイケル”と名づけました。なお、妊娠期間は452日でした。

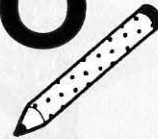


7月21日 第20回サマースクールを開催しました。対象は小学生の4、5、6年生で、多数の応募者の中から抽選で選ばれた182人の子供



今月もおもしろ情報満載

ZOO DIARY



たちを3組に分けて、各2日間、合計6日間の予定で行いました。

- 7/22. アオバズクとイワツバメを各1羽保護しました。

アカダイショウ(ヘビ)の性鑑別を行いました。

7月23日 大暑の日になんで、ホッキョクグマの母仔に氷柱をプレゼントしました。



約60kgの氷柱2本を展示場に置く、仔の“ゆきみ”は初めて見る氷におっかなびっ

くりでしたが、母親“ユキコ”の動作を見て次第に慣れ、ひとしきり氷と戯れていました。

- 7/24. ツバメとヒヨドリのヒナを各1羽、イノシシの赤ちゃんを1頭保護しました。
- 7/25. アミメキリンの母仔“サキコ”と“マイケル”を試験的に屋外放飼しました。
- 7/26. キョンが1頭生まれました。
- 7/27. フクロウ1羽とタマシギのヒナ2羽を保護しました。
- 7/28. ブタオザルが1頭生まれました。
- 7/30. アミメキリンの母仔とメスの“ハルミ”を寝室内で同居させました。
- 7/31. ツバメ、キジバト、ドバトを各1羽保護しました。

■お知らせ■

●ゾウの春子にリンゴのプレゼント
日時: 9月15日(祝) 午後1時~
場所: ゾウ舎前

●秋の動物愛護週間
日時: 9月20日(火)~9月25日(日)

●動物園のおじさんのお話
ピンゴDeガイド
日時: 9月18日(日) 午後1時~
集合場所: 新世界ゲート

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光/監修
B5変型判・オールカラー
定価680円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか？ 動物園での世話
の仕方は？ 仲間とは？ など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

くらしと かいがた シリーズ <既刊本>
B5変型判・オールカラー・各定価680円

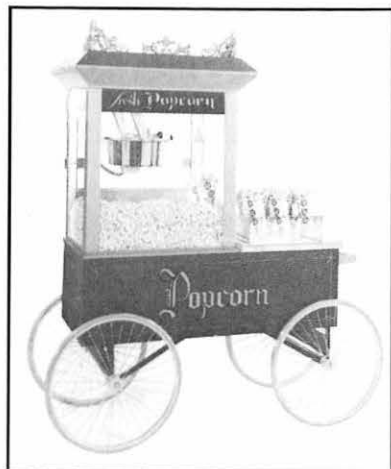
むし くらしと かいがた

野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきもの くらしと かいがた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。 ひかりのくに株式会社 本社/〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表



マスタのポップコーン



〈営業品目〉 製造機械・保温機 他
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

(株)増田食品 〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30
TEL (06) 865-0165

オートフォーカスカメラに

フジカラー SUPER HG 400



ピントが合いやすいフィルムです

カラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
阪急三番街店 ☎372-5031
OHVAC店 ☎346-7606
(ギャレ大阪)

動物の生態を描く唯一の文学雑誌

動物文学

昭和九年平岩米吉によって創刊

本誌は生態研究を基礎として動物文献を収集整理する
とともに、シートン、ザルテン、バイコフ等の諸作家
を紹介した本邦動物文学の母胎です。

〈研究・考証・記録・随筆・翻訳等を掲載〉
会費/年1,500円 (切手72円・呈既刊号目次)

動物文学会

〒152 東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話03(3717)1659・振替・東京5-9800

新作

貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」
19分(10本常備)

- 対象/保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間/10日間
- 貸出料/無料(但し郵送料510円は必要)
- 申込先/当協会まで手紙かハガキでお申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

天王寺動物園の本

入園の記念・手引に……

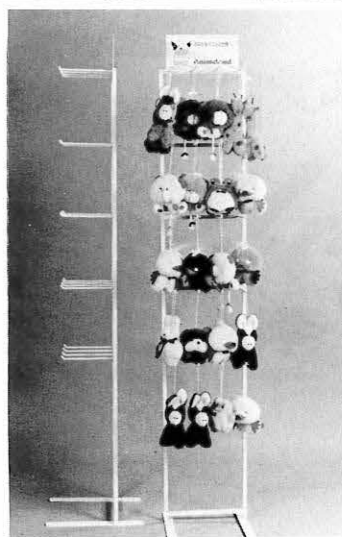


オールカラー

500円

園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

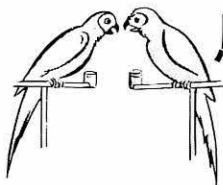


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

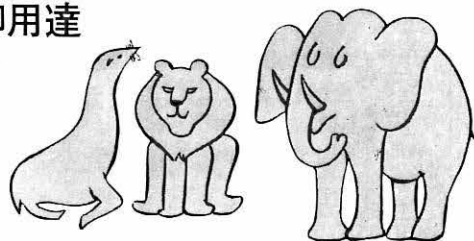
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06) 704-8580
FAX: (06) 704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円

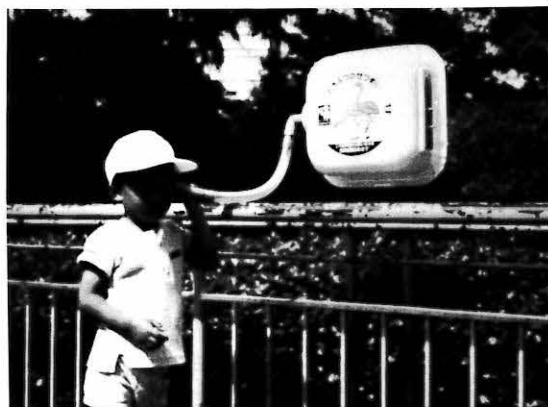


有限会社 **吉川商会**

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

電話 (078) 221-8195(代)

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヶ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での
お食事、
ご休憩は



動物園内.....

中央売店

TEL 06-771-0973

動物園内
お食事・飲み物・おみやげ **南園売店** TEL 06-771-7110



思いやり、ほんの少し、コアラのために。



多くの思いやりが、ひとつになって、オーストラリア・コアラ基金を応援します。

多くの人に支えられて育ってきたコアラのマーチ。

一方、コアラのふるさとオーストラリアでは、シドニー近郊の山火事などにより、コアラたちの安住の地が年々少なくなってきています。

そこで、ロッテでは、コアラのマーチ誕生10年を記念するキャンペーンを実施するとともに、

コアラを取りまく環境を守ろうと、オーストラリア・コアラ基金(1986年設立)のゴールドスポンサーになりました。

コアラのマーチを支えてくれる皆様の思いやりがひとつになって、オーストラリア・コアラ基金を応援いたします。

LOTTE



Our yogurt has fruity
and rich texture!!

“生イキヨーグル”と
覚えてね。



ほりたてミルクのおいしさが、生きている。

雪印
ヨーグル

希望小売価格 130g/各120円 250g/各220円(税別)



HJIRI-KOJIMA

一日
愉快地
たのしめる!!



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ 1994年9月10日発行(毎月10日発行)第30巻 第9号(通巻349号)

編集/大阪市天王寺動物園事務所

発行人/大阪市天王寺動物園協会 土井良彦

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74

電話 大阪 (06)771-0201

振替口座 00930-2-37823

編集委員

(中山良三郎/岩倉善樹/増野悦敏/樽本 勲/中川哲男/山根和弘/吉本昌俊/谷森 進/宮下 実/長瀬健二郎/榎原安昭)
(森本委利/中上正幸/堀内智生/小林崇宏/竹田正人/大野尊信/野口秀高/早川 篤/土谷正道/村上勇一/仁田原洋)